

### ここに注目！



## 自治会組織と連携し、地域の強みを活かした事業実施

### ポイント

蔵造りの街並み、職住一体の居住形態を活かし、長期的な視点にたって自治会組織と連携したまちづくりに取り組み、あわせて役員世代交代や商店街オリジナル日本酒の開発、外国人観光客対応などに積極的に取り組むことで、来街者数を回復させている。

### [現状分析及び課題抽出]

### Plan

#### 駅前再開発と商店街の衰退

昭和 50 年代に松本駅前周辺に大型店の出店が相次いだ結果、駅前から若干離れた中町商店街への客足は鈍り、昭和 53 年に約 8,200 人であった歩行者通行量は、昭和 60 年代には 4,000 人台後半～6,000 人代前半にまで落ち込んだ。そうした中、再開発から取り残されたが故に残された明治時代より続く蔵造りの街並みを強みと捉え、「古くからある資源を活かした、魅力あるまちづくりを図るべき」との考えから、昭和 61 年に商店街振興組合と町会（住民自治組織）からなる「中町まちづくり研究会」が発足した。

### [対応策の優位性]

### Do

#### 「蔵のあるまち」を活かして

「中町まちづくり研究会」発足後、「中町（蔵のある）まちづくり基本構想」を策定、平成元年「中町（蔵のある）まちづくり協定」を締結しまちづくり推進協議会を設立、ファサードの整備（平成元年～21 年）や電柱の地中化（平成 9 年～13 年）など、住民と行政とが協働で街並み整備を行ってきた。

街並みの整備を進める一方、市街地で行われる大規模イベント「クラフトフェアまつもと」に合わせた「イベントを伴わない歩行者天国」の実施や、独自のプレミアム商品券の発行、街歩きを要素を組み込んだ街コンの開催、中町の井戸水を使ったオリジナル日本酒「中町」の醸造など、まちや個店の魅力を伝える事業を実施。また、20 年近く続く朝市の開催や近年増加傾向にある外国人観光客へ対応した英語版のマッ

### 基本データ

中町商店街振興組合  
所在地:長野県松本市中央  
人口:約 24 万人(松本市)  
会員数:124 名  
店舗数:124 店舗(買回品小売店 34、最寄品小売店 12、飲食店 40、サービス店 7、その他 31)  
商店街の種類:近隣型商店街  
主な客層:観光客、主婦、高齢者  
関連 URL:<http://nakamachi-street.com/>

### 商店街概要

松本市の中心市街地は、近世城下町が原型となっている。中町は、その城下町の中でも特に「親町」と呼ばれる主要な 3 つの通りの内の一つとされた。明治時代の大火後、耐火建築である蔵造りの街並みが形成され、住民の努力により、その街並みが維持されている。その結果、現在では、多くの観光客が訪れる松本市内を代表する観光地の一つとなっている。その一方、老舗や個性的な小売店・飲食店もあるため、市民も多く訪れる商店街でもある。



整備した街並みで「イベントを伴わない歩行者天国」

プ・ホームページの作成なども行っている。

### [効果の評価及び改善策]

### Check-Action

#### 停滞することなく

一時 4,000 人台半ばにまで減少した歩行者通行量は、平成 16 年以降 6,000 人台～7,000 人台で推

移しており、平成23年には8,000人台を記録した。また、近年では、まちの持つ雰囲気や商業的な可能性から、中町への出店を望む事業者も現れてきている。

組織運営面においても、役員の高齢化を未然に防ぐため、早期の世代交代を行っており、現在、理事の年齢も50歳前後と比較的若い。若手の育成や商店街業務の理事への集中などの課題はあるが、次世代を担う若手経営者からなる組織を立ち上げ独自の企画を行うなど、活動が停滞することのないよう、様々な事業に取り組んでいる。

イベントなどのソフト事業については、商店街振興組合が中心となって行っている。また、商店街組織内に若手を中心とした「なかまち活性化会議」を設置、幅広い参加者による意見交換により、独自の事業を企画・実施している。

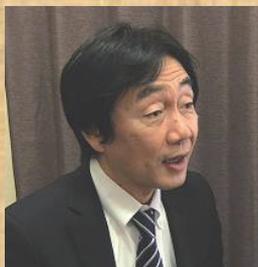


地域の協議会による（蔵のある）まちづくりの推進

### [実施体制等]

#### まちぐるみの取組と若手の参画

中町は昔ながらの職住一体の店舗が多いため、統一的なハード整備を行いやすい環境にある。街並みの整備や施設の指定管理、開発調整等については、商店街振興組合と自治組織である町会からなる「中町（蔵のある）まちづくり推進協議会」が中心となって行っている。



#### キーパーソン

中町商店街振興組合  
副理事長 清澤 進

#### 次世代の人材育成と交流

当組合組織は14年前に多数の役員改選にて世代交代が図られ、新しい役員との交流が始まり、活発な活性化事業を推進してきました。ここまで14年間「信州・中町」を多く発信してこれたのは、役員パワーによるその時代の流れに沿ったイベントや催しの開催、また透明性のある組合運営があったからだと思えます。

この実りを今後も継続させるには、次世代の人材育成が何より急務です。今後のあるべき中町のビジョン等をテーマに活発な議論を行い、交流と親睦を深め人材の連携を図ることにより、中町活性化の重要性についての共通認識が形成出来ると考えます。そのためには若い担い手による「なかまち活性化会議」に大変期待を寄せています。

#### 「中町」を愛し大切に

ハード面における電線の地中化や松本市の修景事業も終わり、さらに魅力的になった中町には、観光スポット「国宝松本城」や「上高地」などに訪れる観光客や、「セイジ・オザワ松本フェスティバル（旧称サイトウ・キネン・フェスティバル松本）」、「クラフトフェアまつもと」などのイベントに訪れる方々が多く来街されています。また、近年では外国人観光客も大勢訪れるようになってきています。たくさんのおもてなしをしたらいいか、各店主の知恵くらべが今後の大きな課題となっています。

また、平成28年には当商店街より400m程先に大型ショッピングモール出店計画があり、当商店街周辺の環境も大きく変わることが懸念されます。

そのような状況の中、商店街が今後も元気に前進していくためには、イベント等の継続に頼るだけでなく、個々の店主が魅力ある個店づくりに励み、またお互いに協調し合い、自らが中町を愛し、人と街を大切にしていくことが一番の特効薬になるのではないかと思います。